



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



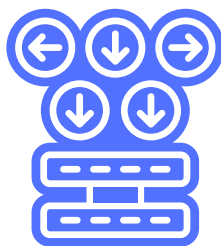
令和7年5月7日号 文責 上久木田 雄二



予測困難な時代

昨年度VUCAの時代のことは学校だよりに書きました。いわゆる

V Volatility 変動性
U Uncertainty 不確実性
C Complexity 複雑性
A Ambiguity 曖昧性



のことです。

予測困難な時代は、この4つの要素が関係していると言われています。

1995年に阪神淡路大震災がありました。未曾有の災害と言われ、共助のためのボランティア活動が活発になりました。

2000年ごろに教育界で話題になったことが「ゆとり」です。円周率を「3」として取り扱うような狭い意味だけが独り歩きして、「ゆとり」はおおよそ3年で逆に舵を切ることになりました。

「ゆとり」教育で再認識されたのが「生きる力」です。

知識を詰め込むだけの教育の限界を予測し、自ら考え、他と協働し新しい価値を生み出すことが必要性。そのための時間的「ゆとり」や心の「ゆとり」が叫ば

れ、その余白から「生きる力」を見出すことが期待されました。

結果的に「ゆとり」教育は頓挫しましたが、その理念は正しかったことが、その後証明されることとなりました。

ゆとりのおおよそ10年後、2011年には、これまでの経験を大きく上回る未曾有の大災害と評された「東日本大震災」が発生しました。

そのまた10年後、2020年には新型コロナウイルスが大流行し、全世界をパニックに陥れました。

まさしく予測困難であったことが立て続けに起こったのです。東日本大震災や新型コロナウイルスは、人の力の限界や判断の難しさ、噂の危うさ、嘘の横行、SNSの恐怖を味わうこととなりました。

これまで経験したことのない出来事は、新たな価値を見出す機会となり、自分と向き合って考える「ゆとり」や「協働」がクローズアップされたのです。

もしかすると、2030年ごろに起こる出来事を生き抜く力は、今現在の教育のあり方と結びついているのではないかと思います。だから子どもには、「しっかり学ぶ」を实践させたいのです。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

